

第二部拡大役員会（第21期・第2回）・日本の展望委員会 生命科学作業分科会（第4回） 合同会議議事要旨

1. 日 時 平成21年7月21日（火）13:00～15:00

2. 場 所 日本学術会議5階 5-A会議室（1）（2）

3. 出 欠

（出席17名）浅島、北島、山本（正）、鷺谷、桐野、黒岩、小原、榊、柴崎、谷口（直）、西澤、
橋田、真木、南、山内、山本（雅）、渡邊、の各委員

（欠席10名）磯貝、唐木、岸、斎藤、谷口（維）、中村、鍋島、廣川、福井、米田、の各委員

（説明者）北原・大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会委員長

4. 議 事

（1）前回会議の議事要旨の承認について

異義なく了承された。もし、何か修正等がある場合は、事務局に申し出ることになった。

（2）「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」審議状況について

大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会委員長から、同委員会における審議状況について説明があった。

これについて、部長から、「評価」が、高等教育機関に書類ばかりを作らせ、本来あるべきものになっていない。大学の疲弊を救うことにもっと力点を置くべきではないか。日本の大学を良くするという仕組みが、逆にかえって疲弊させている。もう少し格調高く、大学が元気になるようにしないとイケない、と発言があった。

委員から、初等・中等教育から大学院教育の中でこうだといった全体像を示すと分かりやすいのではないかと。また、大学が多様であることを前提にしたものにしてほしい、と発言があった。

最後に、部長から、独り歩きをしないようにしてほしい。大学の学生が育つ仕組みを学術会議として外に出す際は、本当にやってほしいものは何か、教育課程の基準ではなく活性化のためには何が必要かといったことを出してほしい。他国のやり方をモデルにするような方法はやめてほしい、と発言があった。

（3）「日本の展望 生命科学作業分科会報告」の取りまとめについて

○資料3「日本の展望 - 生命科学からの提言」（案）について

幹事から、資料3-1「生命科学からの提言（案）」について説明があった。日本の展望委員会から、提言で触れた方がよいのではないかといった意見がいくつかあったようだが、これについては、部長が素案を作成し、私に送られてくる、と説明があった。

これについて、部長から、6月29日「日本の展望委員会（第6回）」で、生命科学からの提言の「目次案」を示したところ、日本の展望委員会委員から資料3-2にあるように、生命倫理、高度医療、生殖医療、エネルギー・光合成、科学・技術リテラシー等にも触れるべきではないかといった意見があった旨、説明があった。また、提言案は30ページ程度以内とするものなので、資料3-2にあるようなことも盛り込みたい。関係する委員にはご協力をお願いしたい。また、資料3-1については各自よく見ておいていただき、意見等がある場合は、7月下旬頃までに第二部役員に連絡いただきたい、と発言があった。

○資料4 - 1～9「各分野別委員会からの報告（案）」について

部長から、各分野別委員会ともに、20ページ程度以内の報告書にするように、と発言があった。

委員から、「20ページ程度」の「程度」の解釈について質問があり、事務局から、「程度」とは、25ページを超えない程度である旨回答があった。

次に、各分野別委員会委員長等から、報告書（案）について簡単に説明を行った。

部長から、報告書案は、資料4 - 2（統合生物学委員会報告書案）を参考にするとよい。従来から様式が決まっているので、これにしたがって作成してほしい、と発言があった。

○資料5「日本の展望委員会 - 生命科学作業分科会 - 第4期科学技術基本計画に盛り込むべき課題と論点」について

幹事から、生命科学として「第4期科学技術基本計画に盛り込むべき事項と論点」について、説明があった。

各自見ていただいたうえで修正すべき箇所等があったら赤字で修正していただき、また新しい提案がある場合には、分かりやすいように項を変えて提案を書き入れていただきたい、と発言があった。

部長から、今修正をしないと、全体案もだんだん固まっていき、徐々に修正がしづらくなるので、よろしく願いたい。意見等がある場合は7月末頃を〆切としたい、と発言があった。

委員から、「生命科学からの提言（案）」と「第4期科学技術基本計画に盛り込むべき課題と論点」は、どこかできちんとすり合わせはしてもらえるのか、と発言があり、部長から、後で行うことになる、と発言があった。

以 上